



EP.
5

世界をリベンジする

与国 秀真
YOKUNI Hotsuma



イシヤの仕組みにかかつて

まだ目覚めん臣民ばかり、

日本精神と申して仏教の精神

基督教の精神ばかりぞ、

今度は神があるか、無いかを、

ハッキリと神力見せて

イシヤも改心させるのぞ。

『日月神示』第2巻



神道家の岡本天明氏は、

「天之日津久神社」

を参拝した際、

休憩を取っていると、

突如、神憑り状態となって、

手が勝手に動き出し始めた。



これを「自動書記」というが、
岡本氏はその後も、
紙に意味の解らない
文字、数字、記号などを
書き殴り、

これは後に
『日月神示』
と呼ばれる。



「神がかり状態」

現代の日本人には、
何とも馴染みがない話だが、

古来より日本人の

民族的宗教である神道には、

巫女という存在がいて、

神々の言葉を降ろしてきたのだ。



たとえば代表的な霊としては、

今から約二千年前、

第十一代垂仁天皇の皇女

倭姫命が、

天照大神から神託を受けて、

伊勢の五十鈴川のほとりを、

鎮座の地と定めて、

伊勢神宮が建立された。





あるいは約千八百年ほど前、
神功皇后は仲哀天皇とともに
熊襲征伐を行った際、

神がかり状態となって、
神託を告げている。



そうしたことが行われてくる中で、
岡本天明という方が、

「イシヤの仕組みにかかって
目覚めていない日本人ばかり」
そう述べたのだ。

「巨大霊能者」とも評された、

大本教の聖師

出口王仁三郎氏も、



『伊都能売魂神諭』

の中で同じく謎めいた

言葉を述べている。

今度行り損なうたら、

万劫末代

取返しのでらん事になりて、

世界は石屋の自由自在に

して仕舞はれるぞよ。



今からでも日本の人民に気がついて、

守護神と一所に世界の元、

地の高天原へ参りて、

イロハ言霊の勉強を致したならば、

末代に一度の神界の

結構な御用に使ふてやるから、

神諭『伊都能売魂』大正八年八月十一日



この出口王仁三郎という方も、

八百万の神霊から言葉を受けて、

善なる神と邪神とが戦う

『霊界物語』という膨大な書物を、

残された方である。



実は日本人は今、
「イシヤの仕組み」に
かかって騙され続け、



そして世界は今、
石屋の自由になりつつある。

それがこの漫画が、
これまで述べてきた
「グレートリセット」
による、



「New World Order」
の完成である。



そしてそれを行っているのは、
「ヨハネの黙示録」に記される
ユダヤ人を自称する悪魔教徒であり、



実は彼らは昔から存在する
「石屋」でもあるのだ。



おそらくは岡本天明氏も、
 出口王仁三郎氏も、
 黙示録のヨハネと同様、

「アカシック・レコード」
 に触れたのだろうか。



次のように述べている。
 権力構造を説明した上で講演で



元自衛隊陸将補の池田整治氏は
 世界のピラミッド型になっている



「安倍さんがどうの〜」、
「日本政府がどうの〜」
と言っても仕方がない。

お互いに戦わせておいて、
彼らに意識が向いてこないようにする
システムに過ぎない。



ここに気づくかどうか。



結局、植民地と化した

日本である以上、

世界の舞台裏を除いた上で、

自分たちが、

本当の戦うべき相手が誰なのか、

それを知らなければならぬ。



なぜなら本当の権力者は

役者ではないからだ。

真の権力者は、

舞台に出てこない演出家であり、

映画に登場しない監督であり、

実はほとんどの政党、あらゆる政治家が、

ただ彼ら手の平の上で

踊らされている役者に過ぎない。



だから歯向かう政治家は、失脚させられるか、殺されてしまう。



残念ながら植民地の政治は、演劇レベルなのだ。





もちろん政治家たちは国民を欺き、
己の地位欲、名誉欲を満たし続ける
ために虚勢だけは張る。

「自分たちが国を動かしている」と。



しかし先の敗戦以来、
日本の政治は、
日本のためになる
根本的なことは何もできない。

そもそも「何が日本のためなのか」、
分かってない政治家も多く、
タレント議員はその典型的な例だ。



そして後ほど詳しく述べるが、
そんな状況下で、
金融エリートたちは今、
アメリカや日本などあらゆる国で、


富裕層と貧困層だけを残して、
すべての中間層を
無くそうとついでている。



実際にすでにアメリカは、
超格差社会が完成しつつあり、
家賃の安いトレーラーハウスで
暮らす人が増えており、

日本でも
トレーラーハウスで暮らす人が
徐々に増えつつある。

※自動車扱いのため固定資産税がかからない



通貨発行権に始まり、
利権を握る彼らは、
すでにあらゆる欲望を
満たしているために、

残った欲望は「支配欲」くらいだ。



そして

「支配欲を満たすためには、
自分たちのお金を増やしつづも、

その他の大勢の家畜どもには
貧しくなってもらいたい、

これが本当に彼らの考えなのだ。



信じられないだろうから、
ここで彼らの思想の一部を
少しだけご紹介する。

これから詳しく説明するが、
彼らは本当に、
我々を「家畜」と考えている。



ゴイは金を持つべきではなく、

持てば神の名において

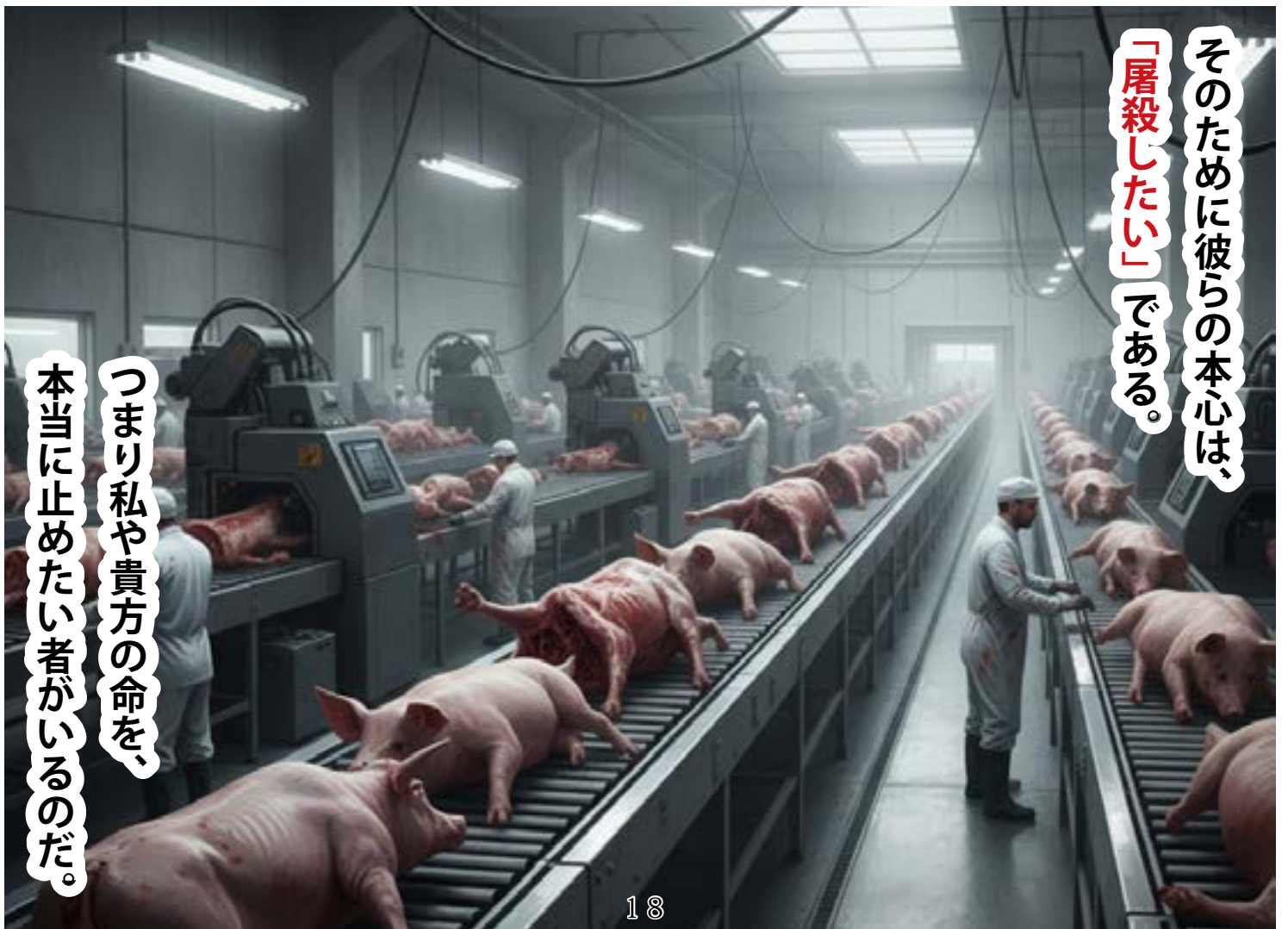
不名誉となるだろう。

(シュルハン・アールフ、コーゼン、ハミズバット、348)



しかも彼らは、
「多くの家畜は要らない」
とも考えている。

多すぎる家畜は、
監視して管理しきれないからだ。



そのために彼らの本心は、
「屠殺したい」である。

つまり私や貴方の命を、
本当に止めたい者がいるのだ。



実際に皆、

生活に苦しんでいる。

彼らが持つ石油利権によって、
ガソリンは値上がりし、



「日米合同委員会」を通じて、

日本の食料自給率を下げ、

各家庭のエンゲル係数を上げつつ、

お米 5kg
4000円

キャベツ
4株 500円

500-



ついでに税金も上げれば、
あと二十年もすれば、
富裕層以外はすべて貧困層になる。



もし今、お金のことで悩みがあるなら、

もし今、将来や老後に不安があるなら、

もし今、家庭不和で、

経済的なことが絡んでいるなら、

もし今、職場の人間関係で悩み、

その原因が会社経営が順調ではなく、
会社全体の雰囲気が悪いなら、

もし今、派遣社員で働き甲斐がなく、

やる気が起これないのならば、

それらはすべて石屋が原因であり、

だから彼らの正体を暴かねばならない。



世界は簡単に騙された。

なかったのに、

スカーフさえ着けて

しかしナイラは



まさに彼らは、

蛇の如く狡猾なのだ。

そのために我々は、

鳩の如く純粹に、

蛇の如く賢くあらねばならない。



そしてユダヤ人は加害者ではなく、被害者であるが、

しかし石屋については、深く知るためには、やはり「ユダヤ」を知る必要がある。

今ほどフェイクニュースが
無かった時代、

『タイムズ紙』編集長

ヘンリー・ウィツカム・ステイード
はこう述べた。

学者も、政治家も、
エコノミストも、
ユダヤを通過せぬ限り、
ひとかどのものとは
いえな

「ユダヤ」を知らぬ者は、
本当は「世界」を知らない、

申し訳ないが、ある意味、
「井の中の蛙的知識レベル」だ。



「知的正直さ」に欠けていて、
世界が見えていなくて、

どうしてそれで、
世界の中にある日本を、
変えていくことができるのだろうか。



『新約聖書』の「ヨハネの黙示録」は、
「終末の時代」の到来、

さらには
偽ユダヤ悪魔教徒の出現などを、
予言しているわけだが、
次のようにも記されている。



獣の口から三つの汚れた霊が出てきて、

その悪霊は、

全能なる神の戦いをするために、

全世界の王のところに行き、

ヘブル語で「ハルマゲドン」

という所に彼らを召集した。

『新約聖書』


ヨハネの黙示録



「ハルマゲドン」、

これは「世界最終戦争」

とも言われているが、



「イスラエルの
メギドの丘にて起こる

神の勢力とサタンの勢力の
最期の戦い」
とも言われている。



世界では今、
イスラエル・パレスチナ問題
をめぐる、

「ハルマゲドンに突入するのでは？」
とささやかれているが、



しかし実はその背後において、
我々のことを「家畜」と見なして、
戦争で利益を上げて、

暗躍している石屋についても、
我々人類は知らねばならないのだ。



では、石屋とは、
果たして何者なのか？



結論から先に言えば、
悪魔教徒だ。



仏教も、キリスト教も、
あらゆる宗教は、
仏や神を信仰し、

そしてその対抗勢力として、
必ず悪霊や悪魔も登場する。



しかし仏教徒でも、
クリスチャンでも、
悪魔の存在は認めていても、

しかし悪魔の存在については、
かなりおぼろげで、

しかも

「まさか悪魔教徒がいる」

とは考えていない人は多い。



しかし極論かもしれないが、
「さすがに悪魔教徒はいない」
という考え方は、

「世の中には悪人はいても、

狂人はいない」

という理論にも似ている。



しかし実際に世の中には、
悪霊に憑かれた狂人はいる。



正気を失って、
愚かなことをする人間は、



どこからともなく声が聞こえて、
多分、あれは神様の声だ・・・

確かに存在しているのだ。

そして「地球」という

この惑星の悲劇として、

魔術とは儀式であり、
儀式には幼い男児の生贄が
最適である。




円の内側、
三角形の内側（魔法陣）の中で、
動物を殺されなければならぬ。

私は魔術の世界に
リクルートされて、
3番目の高祭司として、
25年間、
悪魔に仕えていました。



悪魔を崇拜する、
さらなる狂人さえ存在する。



An illustration of an elderly man with white hair and a beard, wearing a dark suit and tie, sitting at a desk and reading an open book. Behind him stands a large, muscular, black devil with horns and wings, shouting with its mouth wide open. The scene is set in a dimly lit room with a laptop displaying a graph, a teapot, and various papers on the desk. The background features a large, glowing orb.

また、たとえ悪魔崇拝者から
離反する人が声をあげたり、
その人たちのインタビューを聴いても、

私の知る限り、悪魔教徒たちを、
理論的に存在証明した人はいない。

An illustration of a man in a light-colored shirt and dark vest, holding an open book, standing in a dark, ornate room. The room has arched doorways and walls covered in various symbols and hieroglyphs. A large, glowing circular pattern is on the floor, and a beam of light shines down on the man.

だから今回のエピソード5は、
悪魔崇拝者の存在証明であり、

そして彼らが、
我々人類にすでに行っている、
貧困化、屠殺行為の証明と言える。



しかし、悪魔教徒の存在を証明し、石屋の正体を暴く前に、少しでも私の話をしておきたい。

「その話、本当なの？」

という疑いの心で、

これからの話を

聞いてもらいたくないからだ。

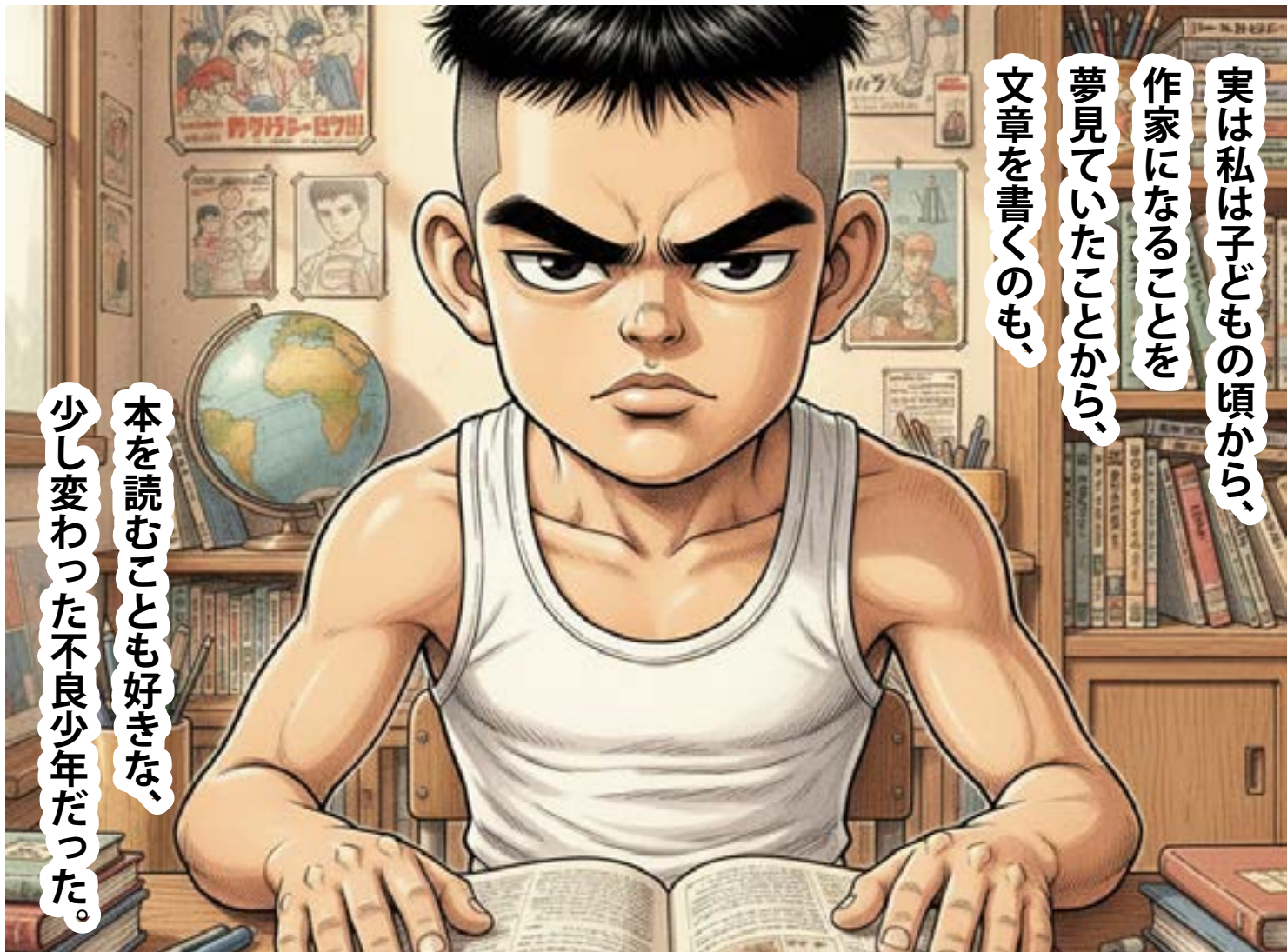


この漫画を、ここまで読み進めている人の中には、もしかしたら私に対して、こういった感想を持つ人もいるかもしれない。

「大学さえ出ていない、

元アウトローにしては、

いろんな分野の話に詳しく過ぎる」



実は私は子どもの頃から、
作家になることを
夢見ていたことから、
文章を書くのも、

本を読むことも好きで、
少し変わった不良少年だった。



しかも
紫式部の『源氏物語』、
鴨長明の『方丈記』、

檣亭雨



さらには芥川龍之介、
宮沢賢治などの
近年の作家を見ても、



日本の文学というのは、
古来から近年にいたるまで、

仏教の影響を
色濃く受けている。



そのために私は、
喧嘩に勝つために
体を鍛えるかたわら、

自然と仏教の勉強も、
するようになった。



しかもエピソード4で
述べたように、

私は幼い頃から
キリスト教系の
ボランテニアにも参加し、
『聖書』にも触れていた。



子どもの頃は、

ボランテニアを受ける側で、

キャンプなどに行くと、

「朝の集い」といって、

大人が『聖書』の一文を

読んでくれるんだ。

人がその友のために

自分の命を捨てること、

これよりも大きな愛はない。

「ヨハネの福音書 15章13節」



幼いながらも、

実話をもとに描かれた

小説『塩狩峠』の話を、

教えてもらった時は、

私のみならず、

純真無垢な子どもたちは皆、

涙していた。

このキリスト教徒の三浦綾子の小説は、
明治末期の北海道を舞台に、
鉄道職員の永野信夫が、
ようやく決まった
結納に向かう列車の暴走事故で、

自らの命を犠牲にして、
乗客の命を救った
幼い頃、クリスチャンになり、
死ぬまでの生涯を描いている。



他の人々のために命を懸ける、
それもまた武士道。

こうした縁もあって、
洗礼は受けないまでも、



多少、『聖書』を学んでいたし、

また、「物書き」を目指す以上は、
シェイクスピアなども読んでいた。

人は泣きながら生まれる。
このアホどもばかりの舞台に
引き出されたのが悲しくてな。」



『リア王』にあるこの有名なセリフは、
仏教の「人生とは苦である」という思想に
「どこか少し似ている」と感じていた。

さて、「悪魔教徒の存在証明」
「石屋の正体」の話に戻すが、

実は多くの宗教が、
DVDどころか紙さえない時代に
始まっているために、



何千年という「時間」をかけて、
何千万人、何億人と
多くの「人間」を介すうちに、

教えの内容が
大きく変節してしまう、
という事実がある。





たとえば
レクリエーションなどで
行われる
「伝言ゲーム」
であっても、

最初の人と最後の人とは、
内容がまったく違っている
ということがある。



ましてや
紙さえ無い時代に
始まった宗教の教えを

きちんと後世に
残していくことは、
至難の技であった。

※画像はユダヤ教のモーセ

そして

「時に宗教は変節してしまう、

この歴史を理解知らない限り、

「ユダヤ人を自称する悪魔教徒」

という言葉、

あるいは、

「世界は石屋の自由にしてしまう」

という言葉は理解できない。

相手の真の姿が見えなければ、
勝ち目もない。

なぜなら相手の思考回路が分からず、
相手が行ってくる戦略が読めないからだ。

「彼を知り己を知れば百戦殆からず」と
『孫子の兵法』が教えているように、

まずは彼らの正体とその思考回路を、
学ばなければならぬのだ。

だからおそらく
聞き慣れない話だろうけれども、
「日本の夜明けのため」と思って、

石屋の正体を暴くために、
どうか最後まで、
お付き合いいただきたい。

激しいユダヤ教との対比のため、
あえて穏やかな仏教をたとえにするが、

一般的にお釈迦様は、

生きとし生けるもの、
すべてが尊く、



すべての生き物が、
魂修行をしながら、

仏へと近づいている。
「仏性」を持った存在である。





だから人生には
必ず四苦八苦が訪れるが、

苦しみや悲しみは
魂を磨くための
砥石は過ぎない。



この世の生命を終えた後にも
命は続き、

「天国と地獄」は存在し、
厳然として、



さらには、「**転生輪廻**」
という生まれ変わりはおいて、



善因善果、悪因悪果
という

「因果の理法」は、
必ず完結する。



だから人は皆

いつの時代であつても

自らの心を正して

生きていかなばならない。



一人一人が

心を正さんと生きること

この世はより美し成り。

やがて地上は

仏国土が築かれていくのだ。

そのように釈尊は

説いたと知られている。



しかし仏教徒の中にも、「霊は無い、生まれ変わりもない」という「無霊魂説」を主張する仏教徒もいる。

あるいは「人間は生まれた時から完全に悟った存在である」と考える「本覚思想」もある。



つまり同じ仏教徒なのに、たくさん宗派、考え方があり、

実は二千六百年という月日の中で、どれが本当の仏の教えなのか、分からなくなってしまったのだ。



多くの「人間」と「時間」が
介在することで、
宗教は教えが変節する
ことがあるわけだが、


しかしそれが
「ユダヤ教」になると、
話がとても厄介だ。



今から3700年前、
ユダヤ教徒の先祖
預言者アブラハムは、

神と「契約」を交わして、
今のイスラエルがある、
広大な土地を約束された。


※モーセ、イエス、ムハンマドの先祖



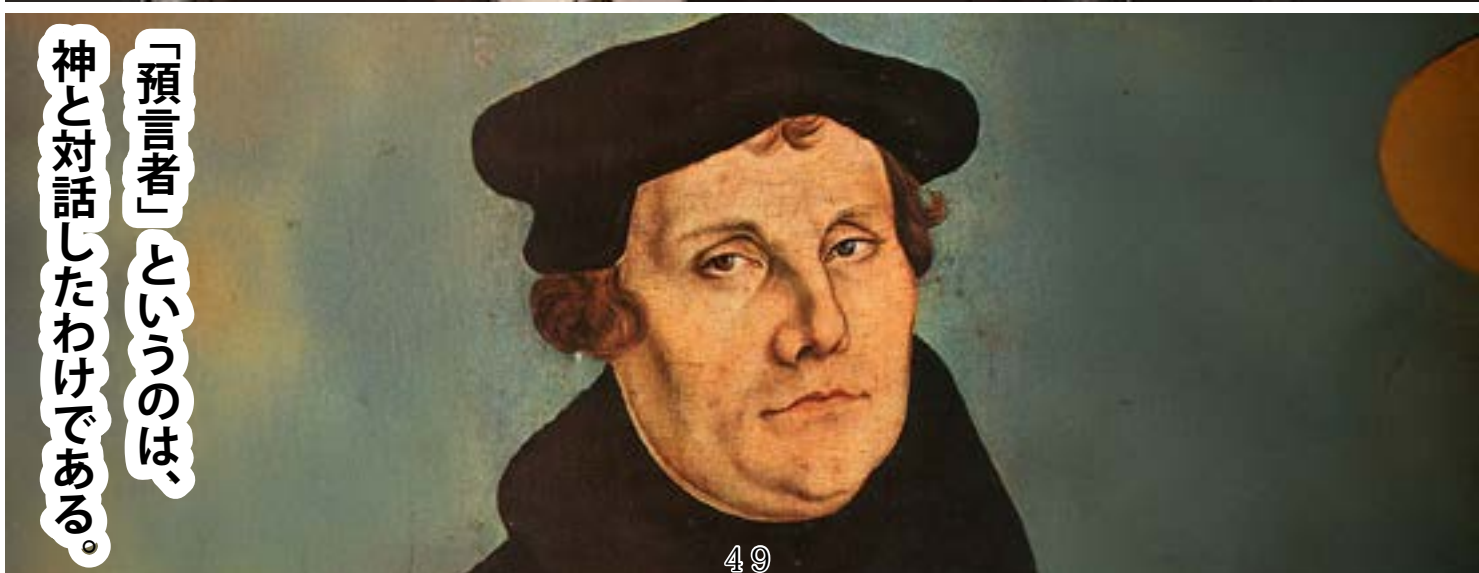
「予言者」とは、
「未来を予知する者」
という意味ではなく、
「神の言葉を預かる者」
という意味であり、

ユダヤ教を興したモーセも、
イスラム教を興した
ムハンマド（モハメッド）も、
共に預言者である。

※ムハンマドは描くことが
禁じられている。



つまり
ジョン・ラミレスや
マルチン・ルターなどが、
悪魔と対話したのとは
真逆で、



「預言者」というのは、
神と対話したわけである。

キリスト教のイエスも
預言者と考えることもできるが、

クリスチャンにとっては、
イエスは「救世主」である。



ちなみにイエスが世に立つ時も、
仏陀が悟りを開かれる時も、
悪魔は妨害しに現れている。

もしもお前が、本当に
神の子だというなら、
この石をパンに変えてみる。

人はパンのみで生きるものではなく、
神の口から出る言葉で生きる。





立ち去れマーラ（悪魔）よ。



そして中東というあの土地は、
日本とは異なって陸続きであり、


しかも
東にはアジア、
南にはアフリカ、
西にはヨーロッパが広がり、



そのために
言語も、文化も、
人種も、民族も、宗教も、
何から何まで異なる人々が
行き交っているために、




島国に生きる
日本人からすれば、
まさに中東は
複雑怪奇である。




その複雑怪奇な土地で、
神と契約を交わした
預言者アブラハムの
子孫であるイスラエルの民は、
食糧難からエジプトに逃れ、

そこで、
奴隷として働かされてしまう。



奴隷から解放したのが、
預言者モーセであり、
彼によって、
一神教のユダヤ教が始まった。



そしてそのユダヤ教には、
こうした教えがある

貴方の神である私は、

妬む神であるから、

私を憎む者には、

父の罪を子に報いて、

三代、四代におよぼし、




私を愛し、

私の戒めを守る者には

恵みを施して、


千代に至るであらう。

『旧約聖書』出エジプト記20章



こうしたユダヤの神の
厳しい教えが、
次第にユダヤ人の中に、

「我々は神より
選ばれたる民である」
という「選民意識」を
築き上げていった。



そしてやがて、
そのユダヤ教の中から、
「ヘーレム」という
激しい思想が生まれた。

これは
「聖なる目的のためならば、
人々を皆殺しにし、
全滅させても構わない」
という「聖絶思想」である。

今から約3200年前、

「約束の地」に

古代イスラエルを建国する際、

当時のイスラエルの民は

「ラハブ」という

一人の娼婦をのぞいて、

その土地の人々を全滅させた。

しかもユダヤの教えは、
ユダヤ教で禁じられている
偶像崇拜を行った際、

同胞に対しても、

かなり厳しいことを言っている。



モーセは彼らに言った、

「イスラエルの神こう言われる、


『あなたがたは、

おのおの腰に剣を帯び、

宿営の中を門から門へ行き巡って、

おのおのその兄弟、

その友、その隣人を殺せ』。



レビの子たちは

モーセの言葉どおりにしたので、

その日、民のうち、

おおよそ三千人が倒れた。

『旧約聖書』出エジプト記 32章



もちろん温和なユダヤ人も
いるのだが、
しかしユダヤの教え教は、
多くの「人間」が関わり、

「時間」の流れと共に、
さらにその激しさを
増していった。



それが『タルムード』の誕生だ。

ユダヤ教徒たちは、
「異教徒」、「異邦人」のことを
ヘブライ語で
「ゴイ」と呼び、
複数形では
「ゴイム」と呼んでる。



しかし『タルムード』
という教えでは、
この「ゴイ」という言葉は、
まったく意味が違っている。

たとえば『タルムード』には、
こう記されている。



動物はゴイムの近くに

いくことを許されない。

なぜなら彼らは

動物たちと性交する

恐れがあるからである。

「アブホダ・ザラー22a」

つまり『タルムード』では、

ユダヤ人以外の人間は、

動物と同等なのだ。

もちろんすべてのユダヤ人が、

この家畜思想に

染まっているわけではない。



ユダヤ人は必ずと言って、『タルムード』には何ら問題はない。

異邦人を蔑むような内容は一言も書かれていない」と『タルムード』が持つ、異常な過激性を否定する。



そしてたしかに1578年にスイスのバーゼルで発刊された『タルムード』は、

敵意と殺意に満ちた部分が、完全に削除されていた。

しかしそれより約六十年前、
1520年にイタリアのヴェニスで
発刊された『タルムード』は、
敵意と殺意に満ち溢れていた。



「ヘブライ語で書かれているから、
分からないだろう？」
とでも思ったのだろうか？

イエスに対しては、
「吊るされた者」



聖母マリアに対しては、
「ただの売春婦」
と罵り続けている記述がある。



また『タルムード』の
一部が翻訳されて、
現在の書店で
売られていることもあり、

それを読んで、

「何も問題はない」

と思いついでしまう人もいる。



『タルムード』に潜む
思想的な問題を暴いたのが、
ドイツの英雄マルチン・ルターだ。



当時のキリスト教の
カトリック教会は、
「賽銭箱にお金を投げ込むたびに
汝の魂は天国に近づく」
ということを述べて、

「免罪符」というものを
売りに出した。



その時、
ルターはカトリックに抵抗し、

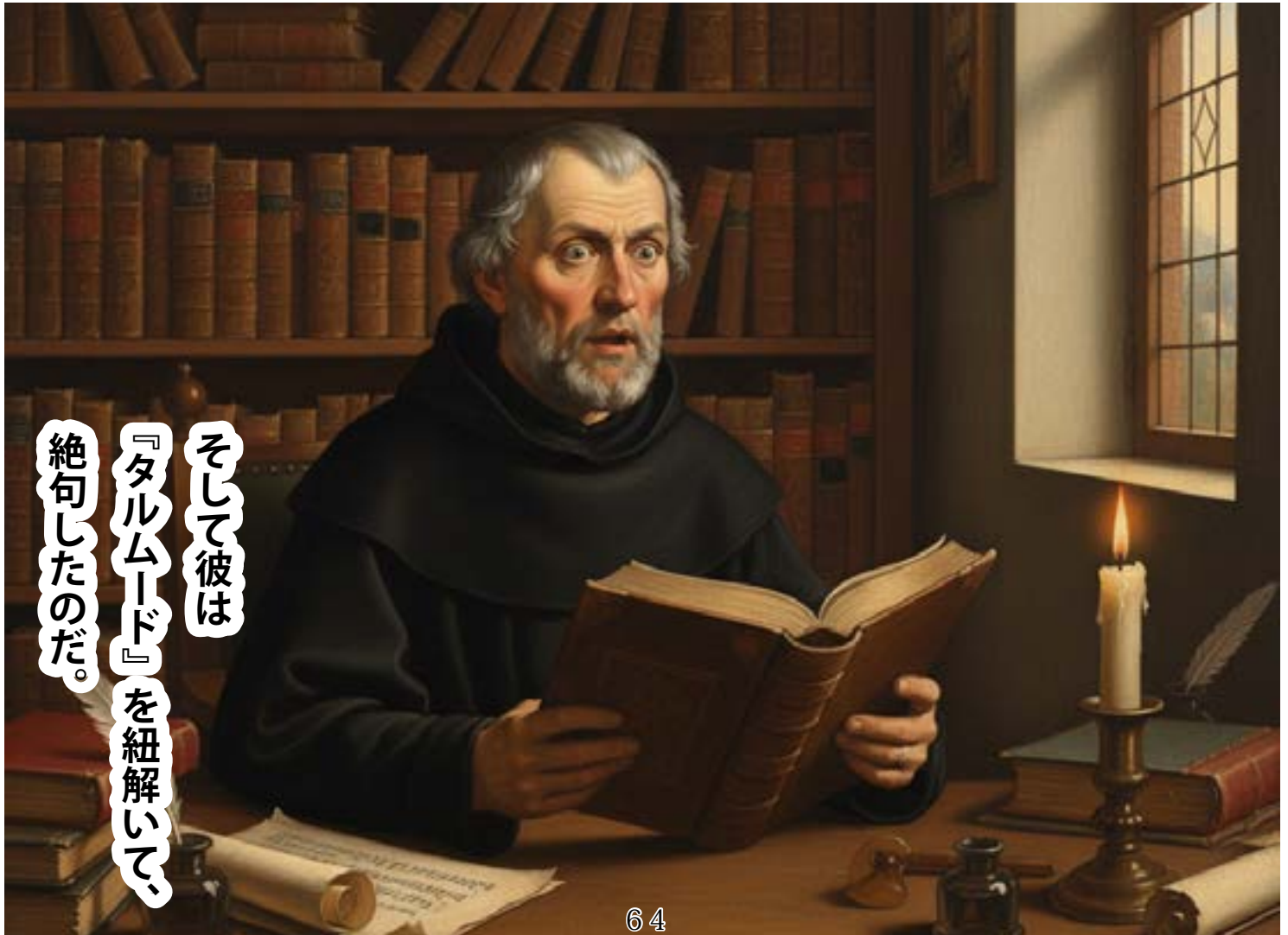
やがてキリスト教に
プロテスタントという
宗派がつけられた。

ルターは、
そのカトリックとの
戦いの中で、

『新約聖書』を
ドイツ語に翻訳するにあたり、
ヘブライ語を勉強し直した。



そして彼は
『タルムード』を紐解いて、
絶句したのだ。



では、実際に

『タルムード』には、

どんなことが書かれてあるのか、

プラナイティス神父が書かれた『仮面を剥がされたタルムード』には、こう書かれてある。

神言い給う、

我は我が予言者（※預）を

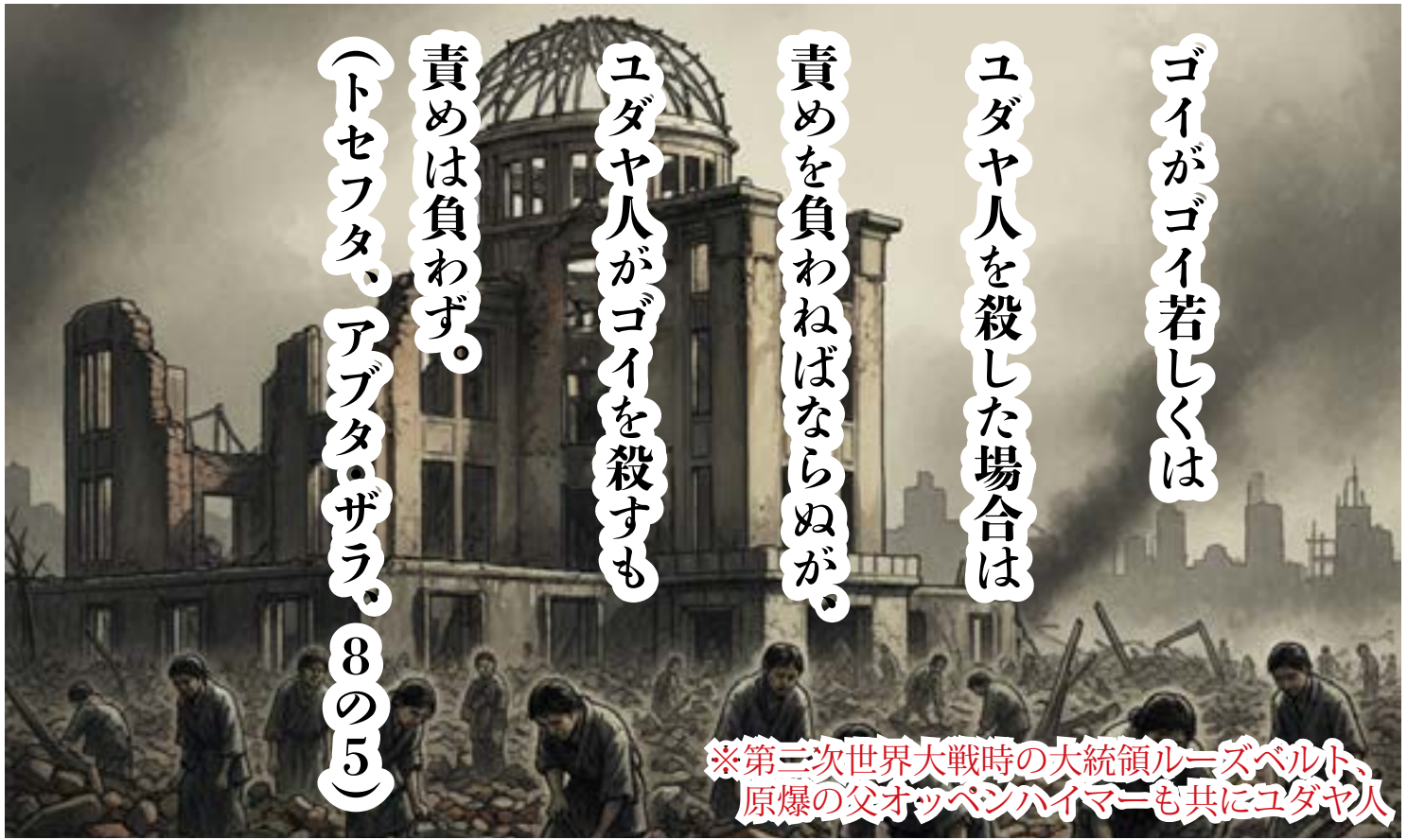
畜獣に過ぎざる偶像崇拜の

徒の為に遣わしたるにあらず。

人間なるイスラエル人の

爲（ため）に遣わしたるなり。

（ミトラシユ・コヘレート）



ゴイがゴイ若しくは

ユダヤ人を殺した場合

責めを負わねばならぬが、

ユダヤ人がゴイを殺すも

責めは負わず。

(トセフタ、アブタ・ザラ、8の5)

※第三次世界大戦時の大統領ルーズベルト、原爆の父オッペンハイマーも共にユダヤ人




ゴイは金を持つべきではなく、

持てば神の名において


不名誉となるだらう。

(シユルハシ・アルーフ、コーゼン・ハミズバット、348)



では、『タルムード』は、
いつ、どのようなように
誕生したのだろうか？

今から2600年くらい前、
それはちょうど、
お釈迦様がインドで
仏教を説かれていた頃、



イスラエルにいた
ユダヤ人たちは、
捕えられて、

バビロニアという国の
首都バビロンへと連れ去られ、
再び奴隷にされてしまった。

この「バビロン捕囚」から
約千年の歳月をかけて、



西暦5世紀頃に
『バビロニア・タルムード』
は、完成した伝えられている。

では、
この「バビロン」という土地は、
果たしてどんな土地なのか？



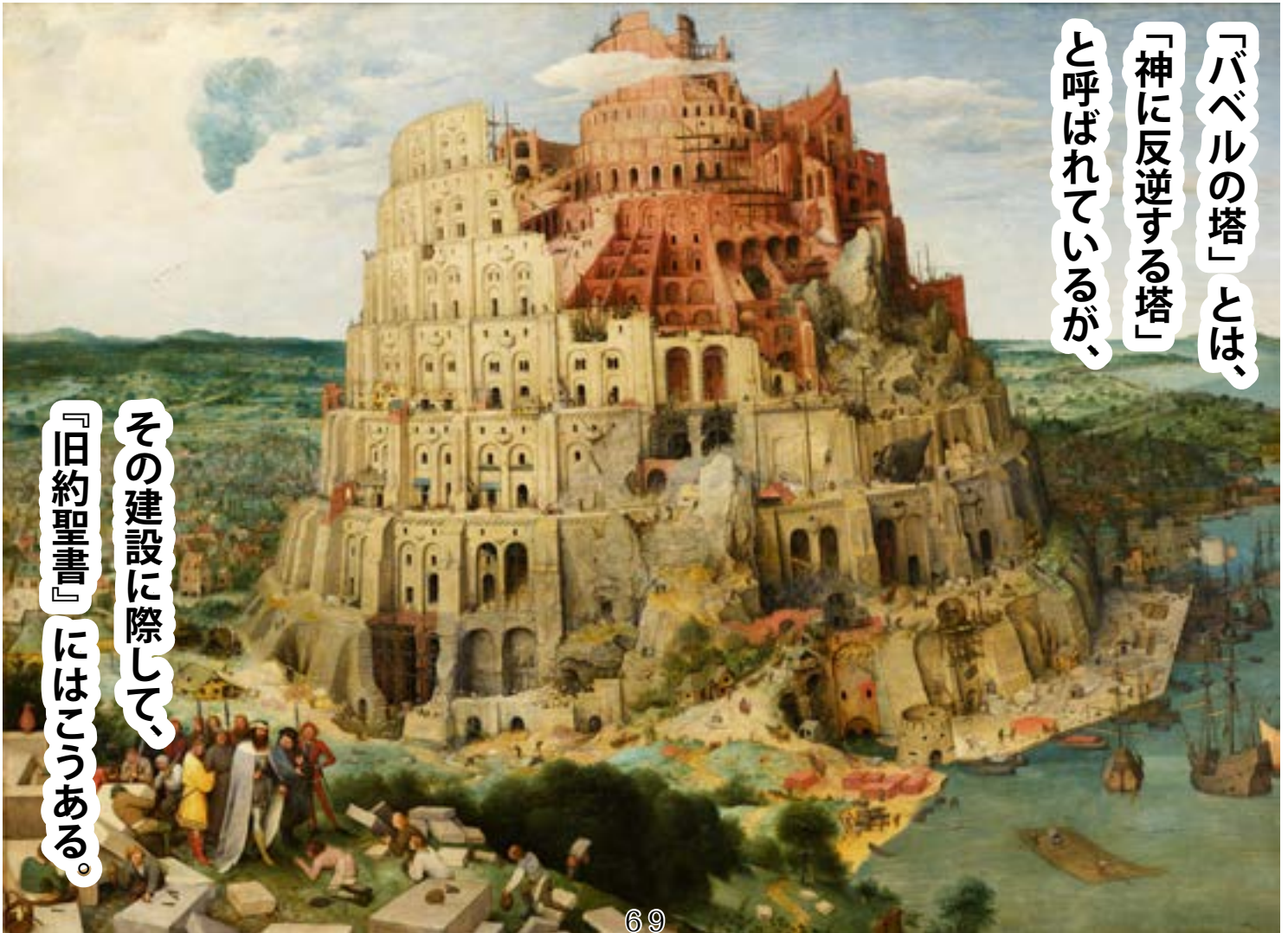
バビロンには
「ジッグラト」と呼ばれる

「バベルの塔」の遺跡
と考えられている
遺跡がある。



「バベルの塔」とは、
「神に反逆する塔」
と呼ばれているが、

その建設に際して、
『旧約聖書』にはこうある。





彼らは言った、


「さあ、町と塔とを建てて、

その頂を天に届かせよう。

そして我々は名を上げて、

全地の表に散るのを免れよう」。

『旧約聖書』創世記11章



「バベルの塔」が
「神に反逆する塔」
と呼ばれる理由は、

この「散るのを免れよう」
という一言にある。

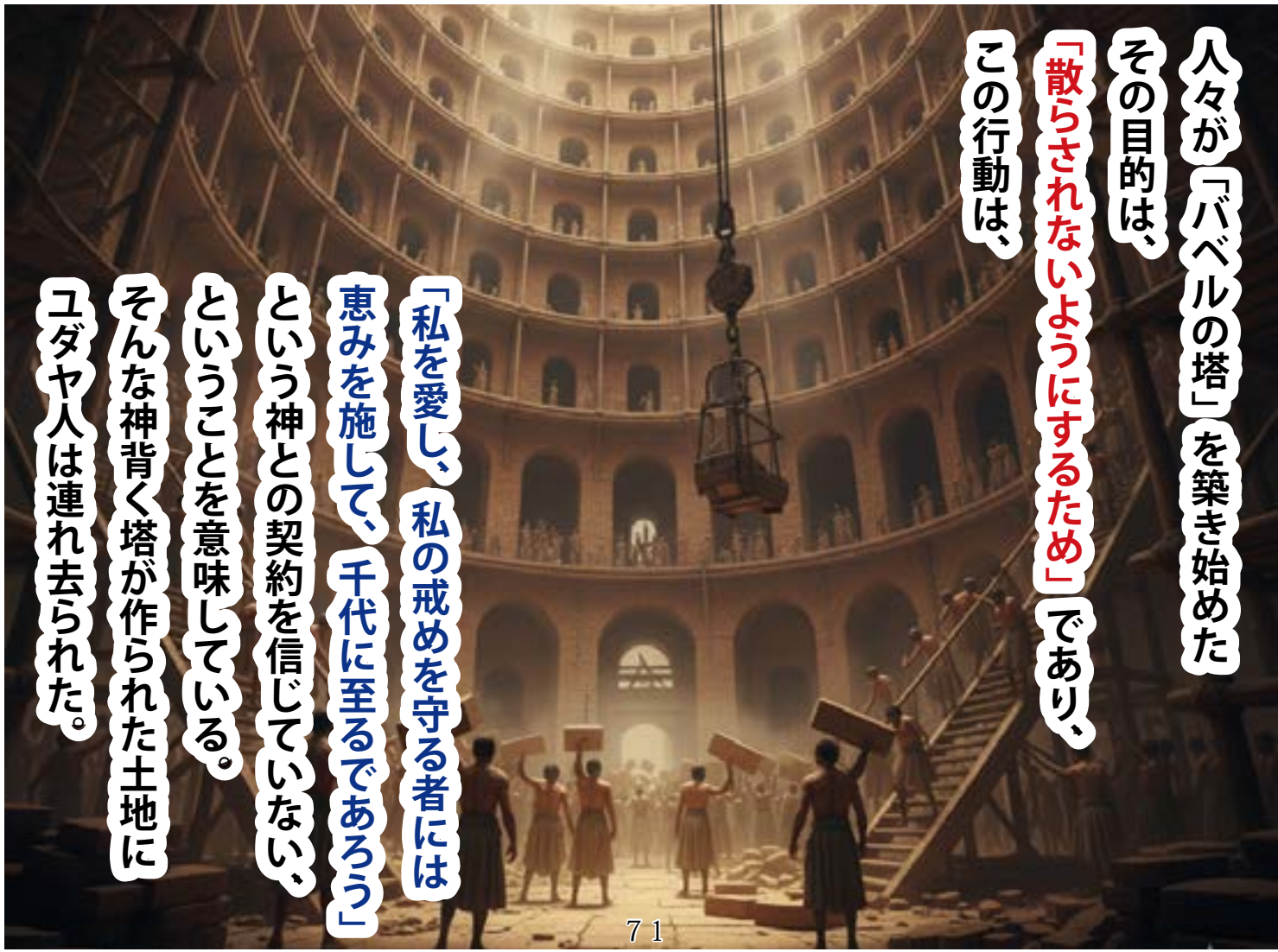


『聖書』の世界では、

バベルの塔が建設される前、
人々が墮落していたので、

神が大洪水を起こして、
預言者ノアの一族と
動物だけを助けた、
と信じられている。

※聖書の価値観ではノアは全人類の祖先



人々が「バベルの塔」を築き始めた
その目的は、

「散らされないようにするため」であり、
この行動は、

「私を愛し、私の戒めを守る者には
恵みを施して、千代に至るであろう」
という神との契約を信じていない、
ということを意味している。
そんな神背く塔が作られた土地に
ユダヤ人は連れ去られた。



「バビロン捕囚」から

約千年後に『タルムード』は

完成するわけだが、

この「バビロン捕囚」の時より、

一部のユダヤ人たちは、

ユダヤ教の教えを捨てて、

代わりにバビロニアの宗教、商法を

獲得したと言い伝えられている。




実際に『聖書』は、

銀行業を禁じているが、

ユダヤ人は銀行業を行い、


そしてこのバビロニアこそ、

今も続く銀行業のルーツがある土地だ。

An illustration of an ancient Babylonian market. In the foreground, several shirtless men are kneeling on the ground, their hands and wrists bound with heavy metal chains. They appear distressed and are looking towards a man in a purple robe and blue turban who is seated at a table, possibly a lender or official. In the background, there are other people, some carrying goods, and soldiers in armor with spears. The scene is set in a busy, sunlit street with stone buildings and market stalls.

古代バビロニアでは、
自分を担保に借金して、
奴隷の自覚の無のまま、
働かされていた。

しかしどんなに働いても、
借金は膨れ上がり、
結局、悲惨な奴隷生活は続いた。

An illustration of a modern city street, likely Tokyo, with neon signs for 'SHIUBVA 109' and 'SHIUBVA 199'. The scene is dark and rainy. In the foreground, several people are walking, but their heads are replaced by computer monitors. They are all wearing dark, heavy coats and are bound together by thick metal chains around their waists and ankles. Money bills are falling from the sky, suggesting a system of debt or financial control. The overall atmosphere is one of a dystopian, debt-ridden society.

そしてそれは、まさに
今の日本やアメリカで
起きている状況と
まったく同じである。

だから今、
私たちの目の前にある
金融制度のことを、
「バビロニア式借金奴隷制度」
と呼ぶのだ。



今の日本の政治家、政党に、

日本国民を、

この借金奴隷制度から解放してくれる、

有能な政治家は皆無だ。

だから日本国民の意識が、

丸ごと変わらなければならぬ。



神に反逆する思想は、

古くから中東地域にある。

そのために人々は

「御利益信仰」に走り、

お金や物質ばかり重宝し、

快楽的に墮落して、

「バアル信仰」に傾いてきた。



「バアル信仰」とは結局、

悪魔崇拝であり、

これが今なお、

密かに残っているわけである。

悪魔の中には

「ルシファー」という魔王の他に

「蠅の王ベルゼベブ」とか、

「ベリアル（無価値な者）」とか

そんな悪魔もいるのだが、



実は古来よりユダヤ人たちは

「バアル信仰」という名の

悪魔崇拝による精神的侵略を

たびたび受けてきた。



たとえば紀元前十世紀、
イスラエルを繁栄に導いた
ソロモン王について、
『聖書』には、
こんな記述もある。



ソロモンが年老いた時、

その妻たち（700人・側室300人）が

彼の心を転じて他の神々に

従わせたので、

彼の心は

父ダビデの心のように、

神に真実でなかった。



ソロモンはシドンびとの

女神アシュトレテに従い、

アンモン人の神である

憎むべき者モロクに

従ったからである。

『聖書』列王記上11章4節



ソロモン王は、

神の警告を無視して、

多くの外国の妻を

娶ることので、

妻たちが行っていた

信仰の影響を受けて、

ユダヤ教で禁じられている偶像を

イスラエルに持ち込んだ。



また今、紹介した

『聖書』の一文には、

「ソロモン王が、

憎むべきモロクに従った」

とあるが、

「モロク」というのは、

「エピソード4で述べたように、

中東における悪魔であり、



中東における

「バアルやアシュトレテの

神々に対する信仰は、

神殿男娼、神殿娼婦があり、

子どもまで犠牲になった」

と言い伝えられている。



このように現代にまで
密かに続いている
悪魔崇拝としての
「バアル信仰」の記述が、



実は『旧約聖書』には
何度も、何度も登場する。



王アハブの子であるアハズヤは、

病気になったので、

「神バアル・ゼブブに、

この病気がなおるかどうかを尋ねよ」

と命じた。

『旧約聖書』 列王記下1章2節



王アハブは首都サマリヤに

建てたバアルの宮に、

バアルのために祭壇を築いた。

『旧約聖書』列王記上16章



ユダヤ教徒たちが、「バアル信仰」に傾いてしまったために、紀元前九世紀には、預言者エリヤが現れて、

カルメル山において、バアルの預言者450人と戦い、火を降らせて打ち破った。

しかしそれから

わずか約二百年後、

預言者エゼキヤの時代にも、



再びユダヤ人たちは

「バアル信仰」に傾いている。

仏教では仏像を祀るように、

「像を祀ること＝悪魔崇拜」

ということではないが、



しかししたしかにユダヤ教徒たちは、

バアル信仰に幾度も傾いてきたのだ。

預言者エレミヤから数百年後、

イエスは

ユダヤ教徒の中から生まれて、

心をつくし、
主なる神を愛せよ。
自分を愛するように
あなたの隣人を愛せよ。
この二つの戒めに、
律法全体と預言者とが、
かかっている。

ユダヤの律法学者たちと
激しい戦いを繰り広げた。

しかしイエスは、
そのユダヤ教徒たちの手によって、

何の罪も犯していないのに、
二人の罪人と共に、
十字架に掛けられてしまう。



「神との新たな契約」

という意味から、

クリスチャンは自分たちの

『聖書』を「新約」と呼び、

ユダヤ教の『聖書』に対しては、

「旧約」と呼んでいる。



その後、ユダヤ人たちは、

国を失って、

イエスを十字架にかけた

呪われた民」として、

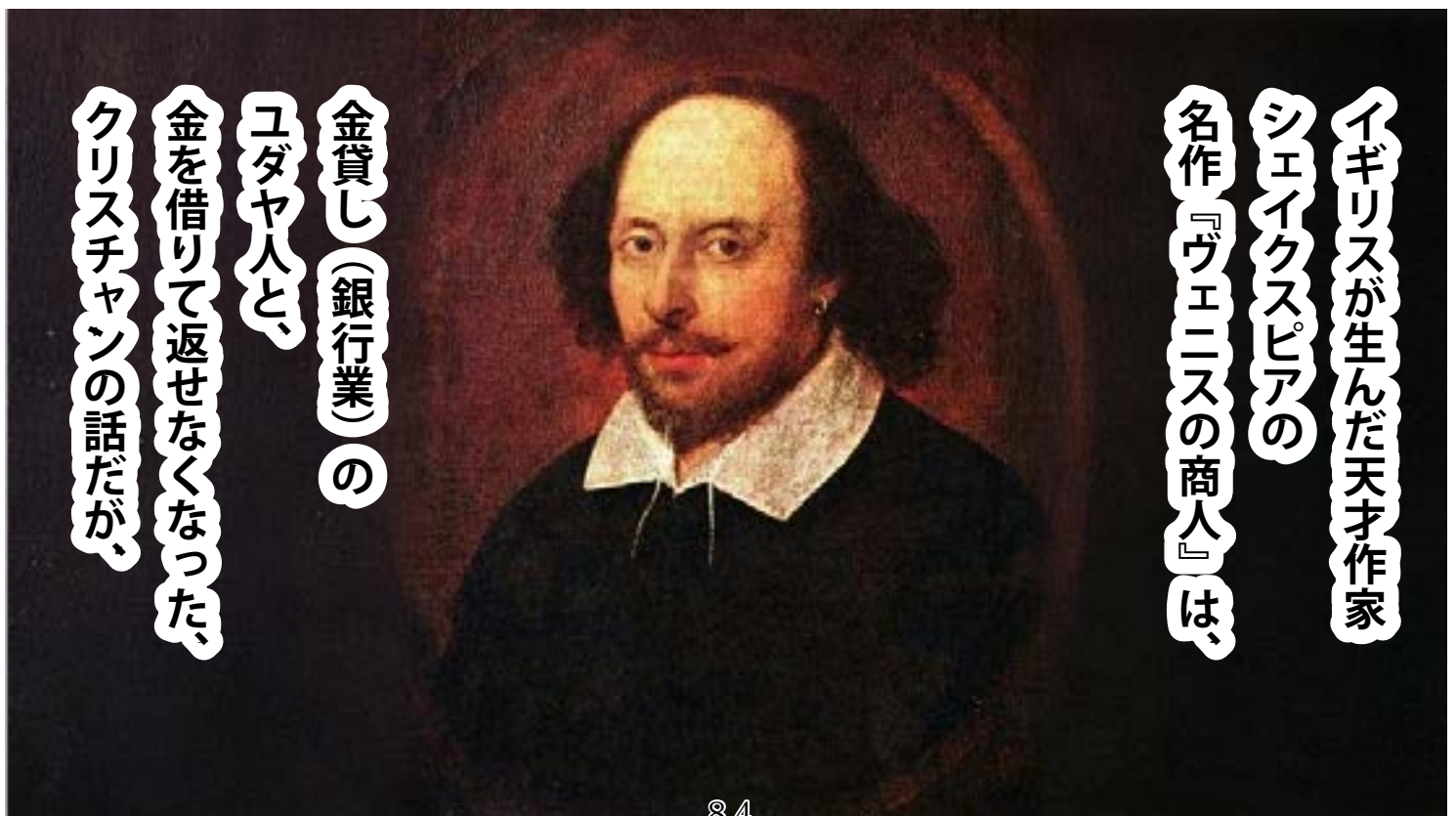
キリスト教徒たちから、

ヨーロッパ各地で、

激しい迫害を受けた。



その「激しいユダヤ人迫害」が、
憎悪と復讐の想いを生み出し、
さらなる悪を誕生させていく。



イギリスが生んだ天才作家
シェイクスピアの
名作『ヴェニスの商人』は、

金貸し（銀行業）の
ユダヤ人と、
金を借りて返せなくなった、
クリスチャンの話だが、


契約通りに

体の肉1ポンドを取ろうとする
金貸しのシャイロックは言う。

ユダヤ人には目がないか？
手がないのか？
あんたたちと同じだ。
ユダヤ人に迫害されたら
どうする？復讐か？

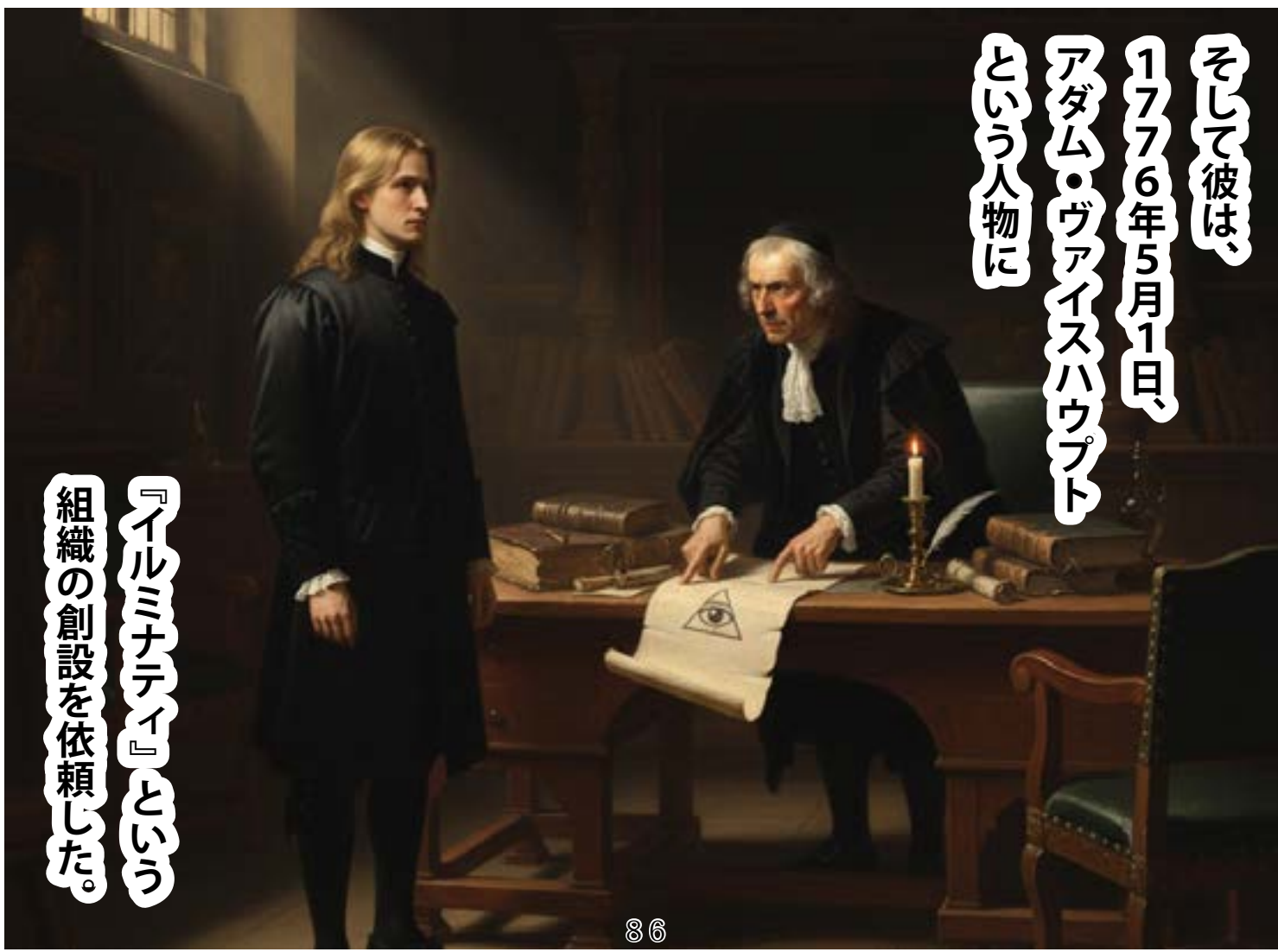
我々だって迫害されたら同じさ。
キリスト教徒を見習い復讐する。
お前たちの仕打ちを真似してやる。
どれだけ苦勞をしても、
お手本より上手にやるぞ。

復讐が連鎖する中で、
さらなる悪が生まれたわけだ。



ユダヤ人隔離居住区の
「ゲットー」と言えば、
ナチス・ドイツが有名だが、
ゲットーは中世から存在し、

初代マイヤー・アムシエル。
ロスチャイルドは、
フランクフルトの
ゲットーで生まれた。



そして彼は、
1776年5月1日、
アダム・ヴァイスハウプト
という人物に

『イルミナティ』という
組織の創設を依頼した。

アダム・ヴァイスハウプトが掲げた
『イルミナティ』の行動綱領は
以下の通りだ。

1. すべての既成政府の廃絶と
イルミナティの統括する世界単一政府の樹立。
2. 私有財産と遺産相続の撤廃。
3. 愛国心と民族意識の根絶。
4. 家族制度と結婚制度の撤廃と、
子供のコミュン教育の実現。
5. すべての宗教の撤廃。

この思想は、

自称ユダヤ人のマルクスが
生み出した、

共産主義にかなり近い。

実は悪魔崇拝者たちは、

共産主義によって、

世界を支配、統治、管理

しようとしているのだ。





しかし1785年、『イルミナティ』は、その凶悪な革命思想が暴露されて、

バイエルン政府から解散命令が出た。



そのために『イルミナティ』は、生き延びるために、

『フリーメイソン』という秘密結社の中に隠れた。




これら一連の流れを
暴露してくれたのは、

「イルミナティ最大の離反者」
と言われている

レオ・ザガミという人物だ。




今も世界に
600万人の会員を擁する
秘密結社『フリーメイソン』
の歴史は古い。



中世のヨーロッパにおいて、
石工職人たちは、

王族や貴族のお城、
あるいは教会などを
建設、修復、増築を行った。



しかし彼らは、
城の抜け道や
財宝の隠し場所などを
知っているために、

城を完成させると、
貴族や王様によって、
殺されてしまうことが
しばしばあった。



そこで石工職人たちは、

自分たちの持つ

高度な建築技術と

生命を守るために、

ギルド（組合）を築き、

『フリーメイソン』という
秘密結社を創設した。



もし仮に

自分たちが殺されたら、


別の仲間が城の見取り図を

敵対する勢力に売るといふ形で、


逆に王族や貴族に脅しを

かけることで、

生きながらえてきた。



それが「自由な石工職人」、
「フリーメイソン」である。



しかも『フリーメイソン』は、
キリスト教国家では禁じられていた、
「ヘルメス思想」を密かに共有した。

「ヘルメス思想」とは、
仏教と同じく
生まれ変わりの教えがあり、
エジプトやギリシャ時代から
続く神秘思想である。

そういった意味では、
善良な『フリーメイソン』の
メンバーもおり、

科学者のニュートンなども、
『フリーメイソン』
メンバーだったと言われている。

いかにフリーメイソンが、
巨大な力を持っているか、
それを象徴するのが、

アメリカ経済の
ど真ん中に立つ、
「自由の女神」
と言えるだろう。

台座に記されていることだが、
フランスのメイソンが、
アメリカのメイソンに
送ったもの、

それが
「自由の女神」なのだ。





フリーメイソンのシンボル、「プロビデンスの目」は、フランスの人権宣言にも、描かれているし、



金融エリートたちが発行している1ドル紙幣にも、描かれている。



アメリカ合衆国の国章として事実上、使われている図柄にも、

十字架ではなくて、プロビデンスの目が描かれている。


『イルミナティ』は、
この『フリーメイソン』という
秘密結社の中に



さらに秘密結社を作ること
で生き延びてきたのだ。

映画『ダ・ヴィンチ・コード』では、
『イルミナティ』は、
すでに消滅したことになっているが、





『イルミナティ』最大の離反者である
レオ・ザガミは告発する。

イタリア『フリーメイソン』の
「P2ロッジ」こそが、
『イルミナティ』の隠れ蓑であった。

ここを隠れ蓑にして、
『イルミナティ』は存続し続けた。



「ロッジ」とは支部を意味する。

この「P2」というロッジは、
『フリーメイソン』の中でも
特に異質で、

爆弾テロや経済犯罪など
度重なる犯罪行為を
行っばかりか、



国家転覆計画が
発覚したことによって、
1976年に
『フリーメイソン』の承認を
取り消されている。

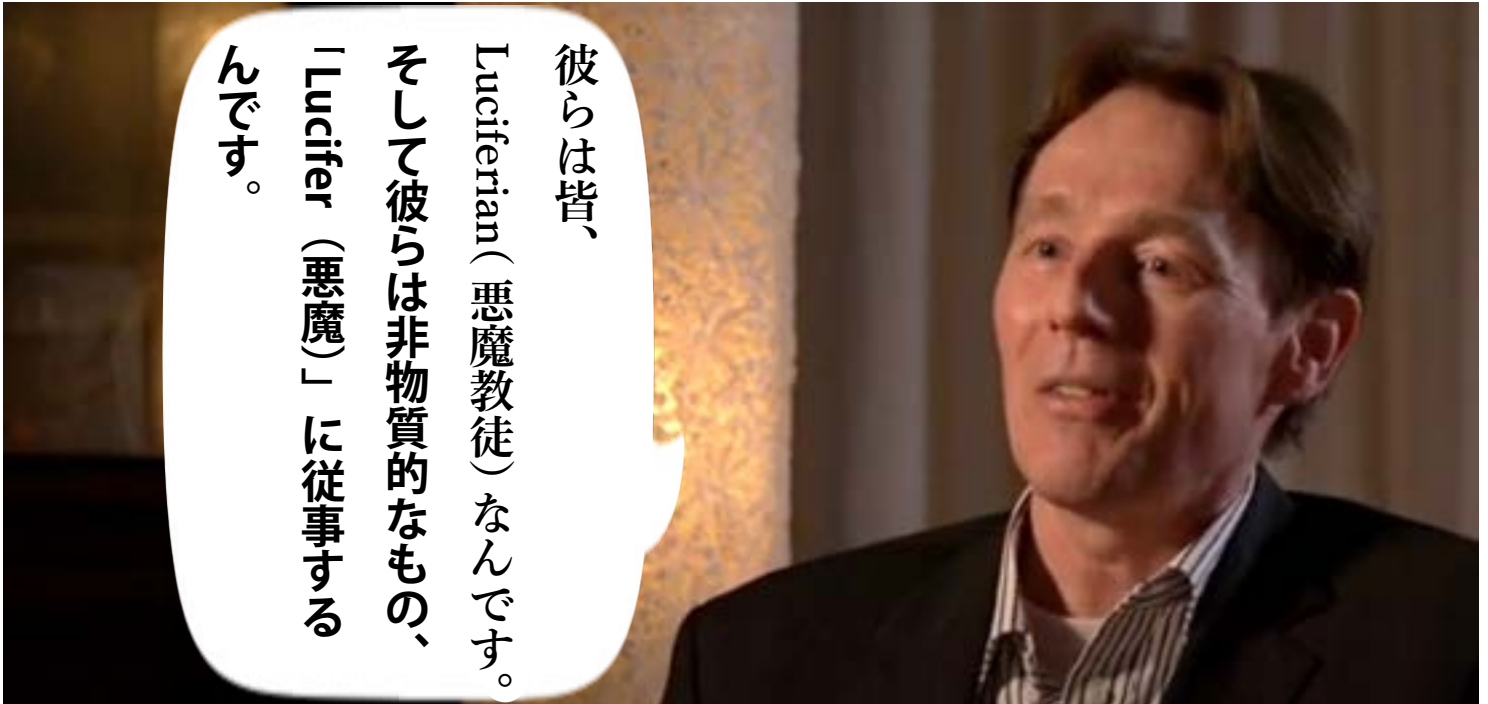


共産思想を持つ『イルミナティ』は
今も確かに、密かに存続している。



暴露の後に亡くなった
オランダの銀行家
ロベルト・ベルナルドも、

元『イルミナティ』の
メンバーだった。



彼らは皆、
Luciferian (悪魔教徒) なんです。
そして彼らは非物質的なもの、
「Lucifer (悪魔)」に従事する
んです。



またレオ・ザガミと同様に、
アリゾナ・ワイルダーという女性も、

『イルミナティ』が現実に今も
存在することを証言している。

彼女は「ルシファールの花嫁」と呼ばれ、



「イルミナティの巫女」になるために、
幼い頃から悪魔的洗脳を受けてきた。

そして彼女は、

この秘密結社の中の秘密結社

『イルミナティ』において、



おぞましい生贄の儀式にも関わり、
その恐ろしい内容を暴露したのだ。



そしてレオ・ザガミ、
アリゾナ・ワイルダーなどの、
離反者たちによって、
彼ら悪魔教徒の思想も暴露された。



彼らの思想はこうだ。

神なんているわけがない。

人生にも、世界にも、
こんなに苦しみがあるんだから。




おそらくこの世界を作ったのは、
神ではなく悪魔なのだ。




そして我々に、
すべての栄養を与えているのは、
光であり、太陽であり、

ルシフェルは、
明けの明星、曙の子だから、
悪魔ルシファーこそ
本当の神なのだ。



我々エリートたちが、
新たな選民となって、
世界を支配してあげよう。

もちろん
こんなに多くの家畜は必要ない。



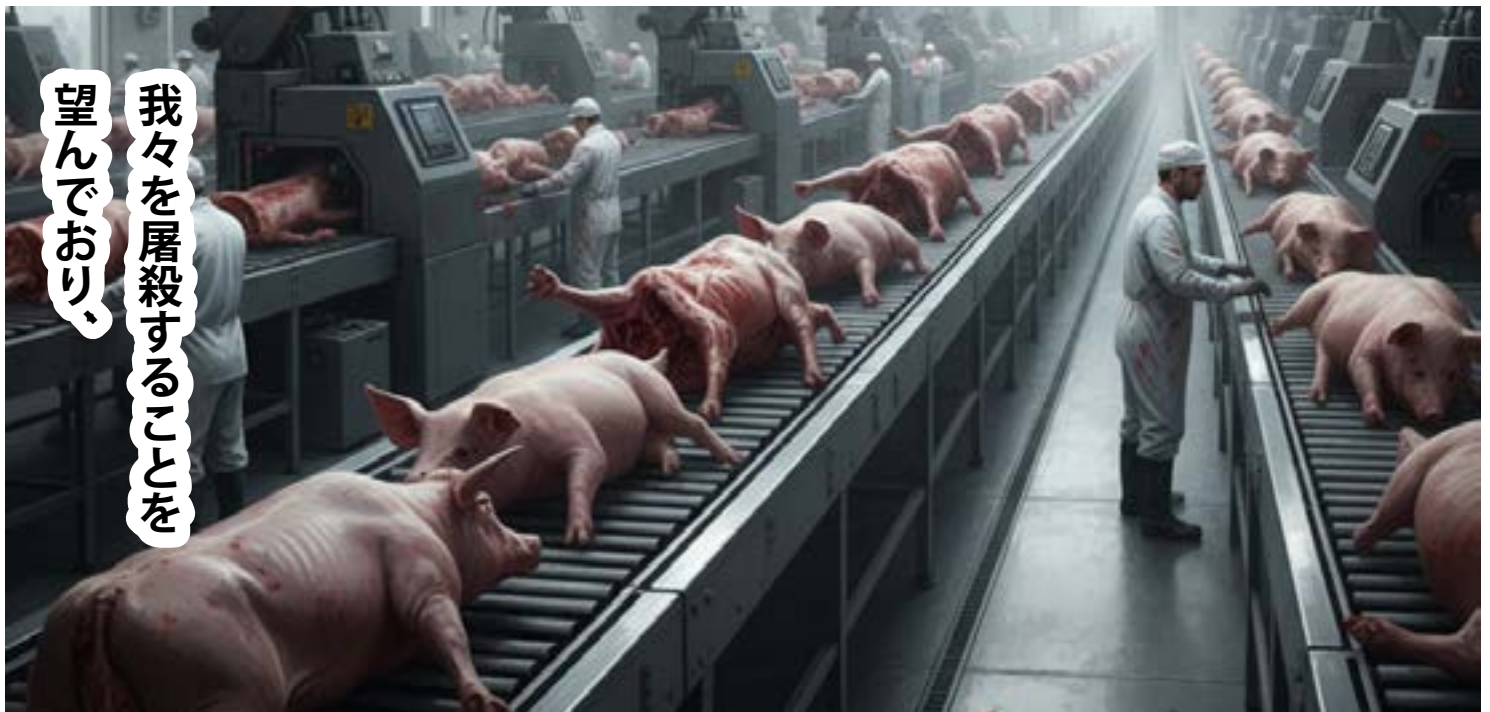
これはエピソード4の中で、
生贄について暴露して
亡くなったロベルト・ベルナルドが、
話した内容とも一致している。

我々にとって、
ただの製品です。
ゴミです。

すべてが無価値なクズです。
自然、地球、すべてが
燃やしうる破壊しうるものです。



こんな狂った価値観の人間が、
中間層を無くして、
我々を貧しくさせて。



我々を屠殺することを
望んでおり、



そして世界の支配まで、
本気で願っているのだ。

実際に「バベルの塔」に、
とても良く似た建造物がある。



一つがスイスのバーゼルにある
『B1S』のビルであり、



もう一つは『EU』の
欧州連合本部ビルだが、



ピーテル・ブリューゲルが
描いた絵画にそっくりだ。

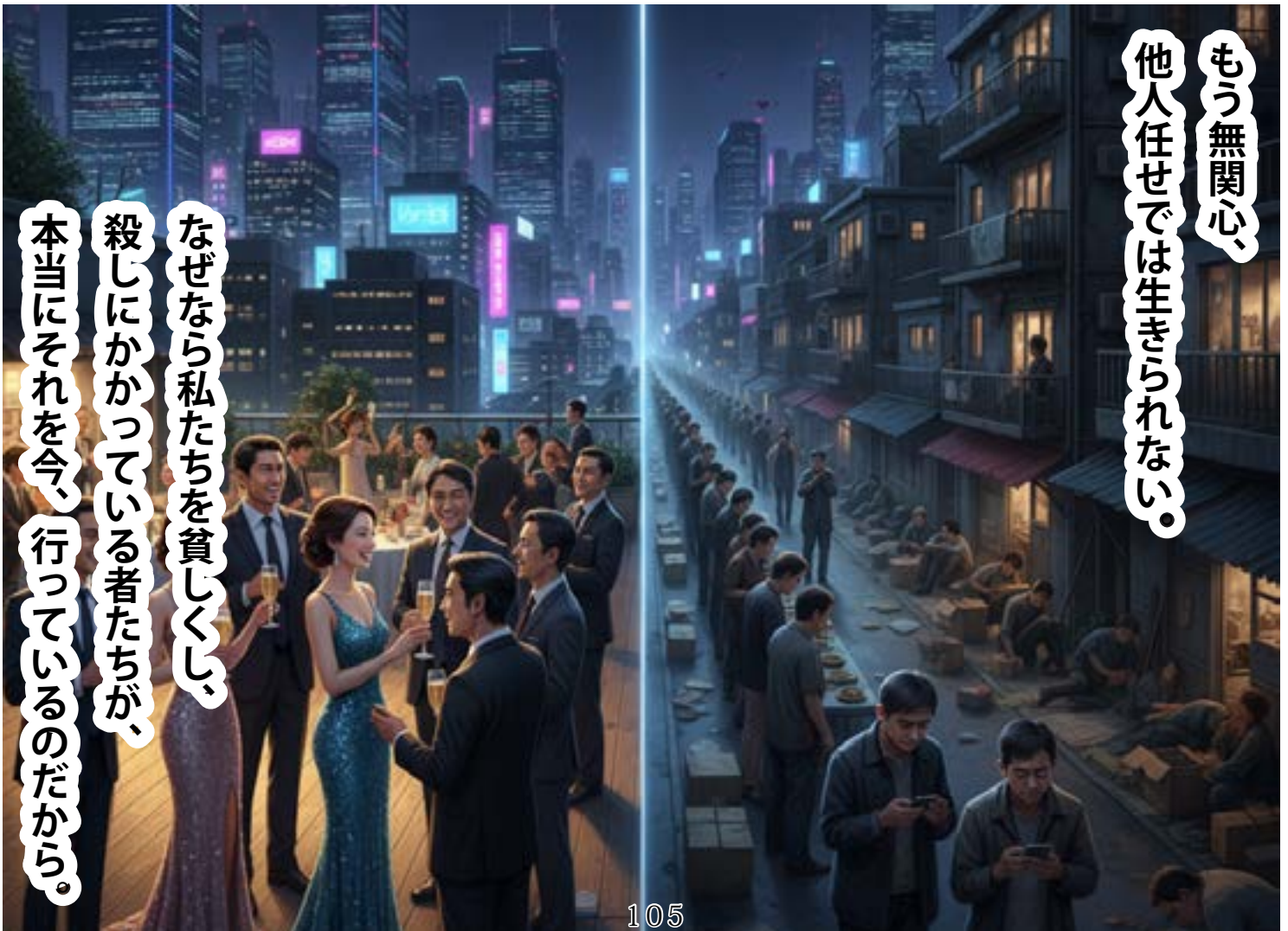
ハッキリ言って、
もう私たちは、
「政治」からは逃げられない。

日本人の中には、
若者から老人まで政治には無関心で、
他人任せの人が多いが、



もう無関心、
他人任せでは生きられない。

なぜなら私たちを貧しくし、
殺しにかかっている者たちが、
本当にそれを今、行っているのだから。





私たちは一致団結して、
戦わなければならない。

自らの弱き心と。
無責任な心と戦わなければならない。



いずれ詳しく説明するが、
「バビロニア式借金奴隷制度」
から脱出するのみならず、

日本が大繁栄国家になっていく
方法は確実にある。

しかし大手マスコミは
少しも信用できなし、

実は大手テクノロジー企業も、
充てにはならない。



なぜなら彼らは、
莫大な富によって、
大手マスコミのみならず、

「GAFAM」までも、
自分たちの支配下に
入れているからだ。



世界人類にワクチン接種を強
制しようと企んでいる



『Microsoft』の
創業者ビル・ゲイツは
ユダヤ人ではないが、

しかし『Microsoft』
の筆頭株主、CEOの



スティーブ・バルマーは
自称ユダヤ人ですある。

『Google』の親会社
『Alphabet』の
株主であるラリー・ページや



セルゲイ・ブリンも
自称ユダヤ人であり、

『META』(旧Facebook)の
マーク・ザッカーバーグも、



やはり自称ユダヤ人であり、

『Apple』の取締役会長
アーサー・D・レビンソンも



自称ユダヤ人である。

金融業界が彼らの手の中に
あることは当然だが、
運用資産残高が約千兆円もある、



資産運用会社『ブラックロック』
のCEOラリー・フィンクも、
やはり自称ユダヤ人である。

これを見ても、

ヘンリー・W・ステイードが

「ユダヤを通過しないと

一人前ではない」

と述べた理由が分かる。

近年は、

国際銀行家と、

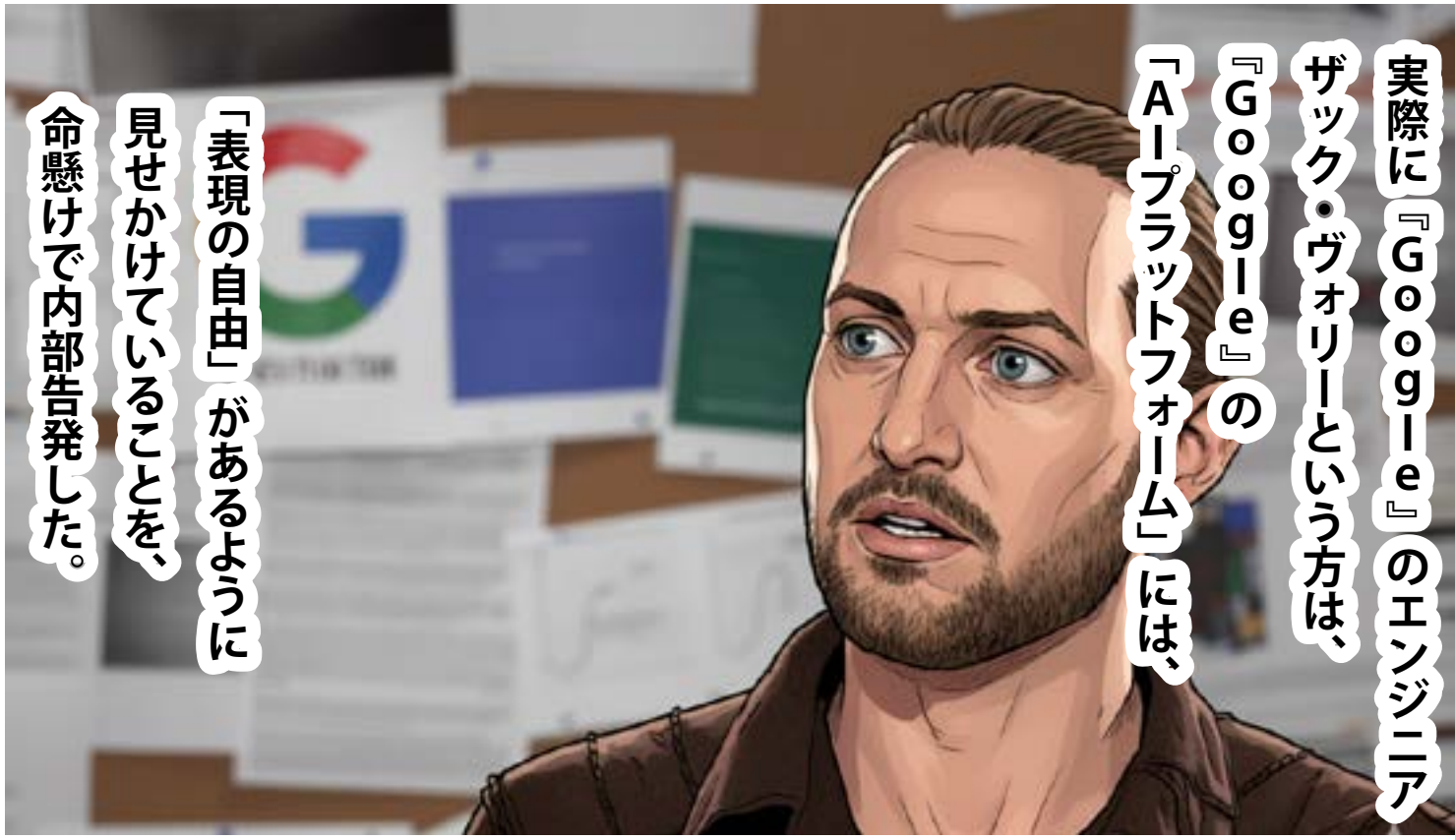
中国共産党の手に落ちた

大手マスコミを、

「オールド・メディア」と呼ぶ傾向にあるが、

このように実のところ、
大手ネット業界でも
深い真実を語れい。

特に「悪魔教徒」、
「イルミナティ」、
については。。。。



実際に『Google』のエンジニア

ザック・ヴォリーという方は、

『Google』の

「AIプラットフォーム」には、

「表現の自由」があるように

見せかけていることを、

命懸けで内部告発した。



彼は、勇気をもって

人類に、こう呼びかけている。

『Google』は危険である、
使用を中止せよ！



👉この動画『地球の涙』の中でも、
少しだけ紹介しているが、
悪魔のドラッグ
それを「アドレノクロム」という。



子どもを拷問し、
恐怖に怯えた子どもたちから
流れ出る血から製造される。

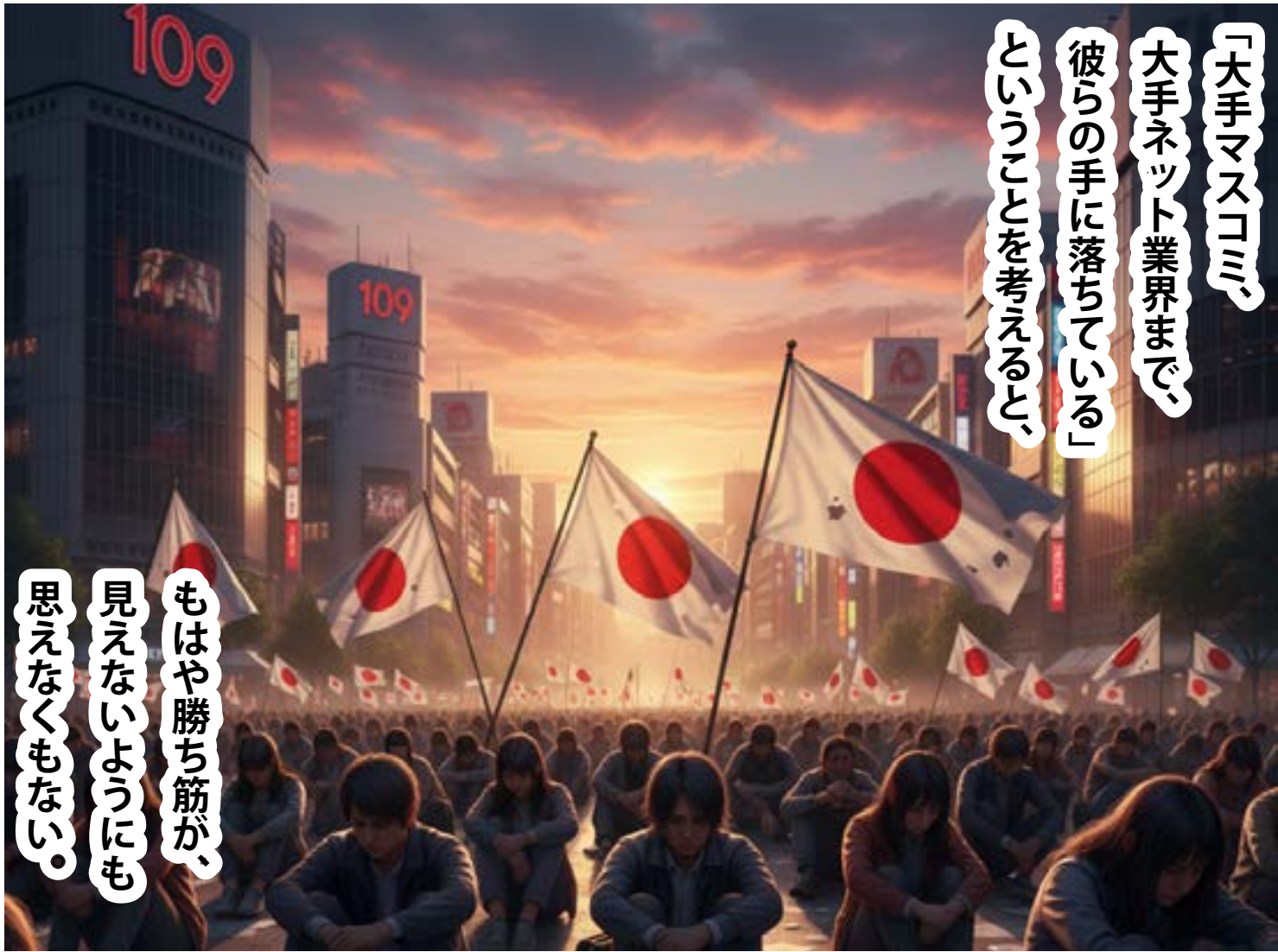
『Google』は2008年に
『Chrome(クロム)』をリリース、

翌年に、GPUに

「Adreno(アドレノ)」と名付けた。

彼らはジョージ・オーウェルの
小説『動物農場』のような暗黒世界を
望んでおり、

そして我々を「家畜」と見なして、
バカにして遊ぶの好きなものだから、
おそらくこれは
単なる偶然ではないだろう。



「大手マスコミ、
大手ネット業界まで、
彼らの手に落ちている」
ということを考えてると、

もはや勝ち筋が、
見えないようにも
思えなくもない。



しかしレオ・ザガミは言う。

日本はイルミナティの計画を
150年に渡って
挫いてきた稀有な国であり、

悪魔勢力は日本を
『神の国』と認定して、
最大敵国と見なしている。

しかし冒頭で紹介した『日月神示』を思い出して欲しい。

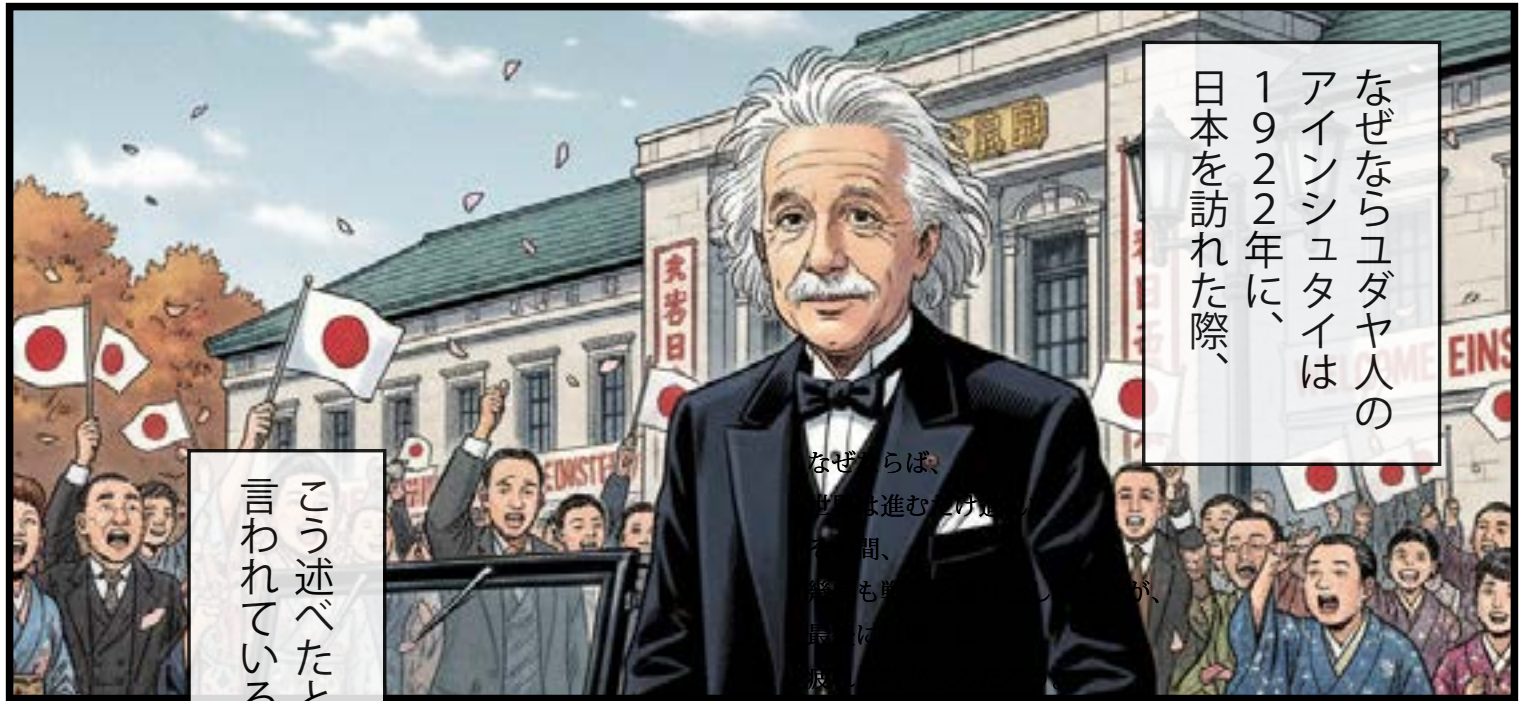
今度は神があるか、無いかを、ハッキリと神力見せてイシヤも改心させるのだぞ。

『日月神示』第2巻 第十六帖

「イシヤも改心させる」

それは人類が一丸となつて、取り組まなければならぬことだが、

しかし私たち日本人こそ、これを行う上で、重大な鍵を握っていると、言えるだろう。



なぜならユダヤ人の
アインシュタインは
1922年に、
日本を訪れた際、

こう述べたと
言われているからだ。

なぜならば、
世界は進むべき
方向、
終極目標、
道徳に
基づいて



私はいつもこの広い
世界のどこかに、
一ヶ所ぐらいは

このように尊い国が
なくてはならないと
考えてきた。



なぜならば、
世界は進むだけ
進んでその間、


幾度も戦争を
繰り返してきたが、

最後には闘争に
疲れる時が
来るだろう。



この時、人類は
必ず真の平和を求めて
世界の盟主を挙げなければ
ならない時が来るに違いない。





その世界の
盟主こそは
武力や金の力
ではなく、

あらゆる国の
歴史を超越した、
世界で最も古く
かつ尊い家柄で
なくてはならない。

世界の文化は
アジアに始まって
アジアに帰る。

それはアジアの高峰
日本に立ち戻らねば
ならない。



我々は神に感謝する。

神が我々人類に
日本という国を
造って置いてくれた
ことである。

アインシュタイン
この有名な言葉は、
音声が残っている
わけではないため、

「創作だ」
と言われる
ことがある。

アインシュタインの
言葉は、
フィクション
なのだろうか？

いや、「荒唐無稽な
作り話ではない」
と言えるだろう。

なぜならユダヤ系
フランス人の
文化人類学者で、

「人文科全体に
革命を起こした」
と言われる

クロード・レヴィ・
ストロース教授も、
同じようなことを
述べているからだ。



彼はナチスによる
ユダヤ人迫害の中で、

欧米文化に
嫌気がさして、
南米ブラジルに
移り住む。



そこで「木や川、
自然に精霊が宿る」
という彼らの
暮らしに溶け込み、

「地球でオアシスを見つけた」
と喜ぶのだが、

ヨーロッパの
文化によって、
美しい南米の文化が、



世界はこのまま、
科学文明一色に染まる
しかないのだろうか…

次第に汚染されて
いくことを嘆き
悲しんでいた。



しかし人生の後半
になって日本文化
に深く触れた時、

「日本は他に比類ない」
と感嘆した。

日本には、
異質なものを
取り込みながら、

美しく調和させる
叡智があるー！

クロード・レヴィ・
ストロース教授は
こう述べている。

私はこれまで
世界中の神話を読み、
数百の文化構造を
比較してきた。

だが、
日本ほど精緻で美しく、
矛盾を抱きながら
調和し続けてきた文化を
私は他に知らない。





私が驚いたのは、
日本人が
「違う」に対して持つ
独特の眼差しだ。



例えば、
外来の思想や
宗教がやってきたとき、
他の国なら、
自国の文化を捨てるか、
入って来たものを
排除するかに
なりがちなのだが、

日本では新旧を対立させず、
古きものと新しきものを
重層的に積み重ねていく。

神仏習合や
和洋折衷の風習、
現代都市に残る
古い神社の静けさと
高層ビルの共存、

その在り方には、
異なるものを
そのままに調和させる

静かな智慧が
息づいている。

日本人は、しばしば、
自分たちの空気を読む文化や
曖昧さ、控えめな態度を
自虐的に語るが、
実はそれこそが、

多様な価値観や

美意識を共存させ、

争いを最小限に抑え、

調和の中で独自の道を

切り開いて来た底力なのだ。



このように、
世界中から「天才」
と呼ばれた方々が、
私たちの国、
日本のことを
絶賛している。



私たち日本人にとって
当たり前前の風景は、
長い年月をかけて
築き上げられた
智慧の結晶なのだ。



夜でも女性が散歩できること、



子どもがランドセルを背負って、
歩いて学校に通えたり、

自転車で気楽に
登下校できること、




レストランで荷物をイスの下に置いたり、壁に掛けられること、




夜中にお腹がすいたら、牛丼が食べられること、

夜でも自販機でジュースが変えること、




こんなごく当たり前の光景が、
世界からすれば奇跡で、

そしてそれが今、
失われようとしているのだ。




なぜなら日本人が吸収、
調和できない速度で、
外国から文化や宗教が持ち込まれ、

むしろ日本中で混沌が生まれ、
平和が脅かされているからだ。



いや、むしろ世界中の国々で、
移民や難民たちが、

自国の文化や宗教を
強制的に押し付けてもいる。



早くシャリーア法を
国の法律にせよ！

「シャリーア法（イスラム法）」の解釈は複雑で、
イスラムの教えではレイプは重罪だが、

いずれは人数の多さから、
必ずそうなる！

しかしレイプ事件は立証が難しいために、
被害者女性が罰せられた事例だってある。




イギリスやドイツなどが、
インドやイスラム移民、
難民などによって
呑み込まれつつある中、

日本にもイスラムや中国から
移民や難民が増えて、
すでに大混乱が始まっている。




つまり結局、日本のためにも、
世界のためにも日本人がしっかりして、

日本を「世界の盟主」とすべく、
日本を造り変えなければならぬわけだ。



古代哲学者プラトンが『テイマイオス』などの中で述べてるように、

実は人類は、もう何度も何度も、文明を築き上げては滅ぼし、



そして原始時代へと逆戻りさせて、再びゼロから作り直してきた。

実は失われた古代文明の存在を、人類に隠しているのも悪魔勢力である。



イルミナティ最大の離反者
レオ・ザガミもこうも言っている。

今は、まさに最後の時である
冗談ではない、



貴方がたは皆、

悪魔の手の中の
臆病者の群れなのか？

本当に人類には、
ハルマゲドンの危機があり、

それはこの星を「悪魔の星」にするか、
それとも人類が原始時代に戻るかという危機だ。



我々は神力を見せて、

石屋をも改心させねばならない。



Amazon で販売中!



電子書籍 1.500 円



文庫本 880 円

その他にも オーディオブック
『武士道を行く』 →

